

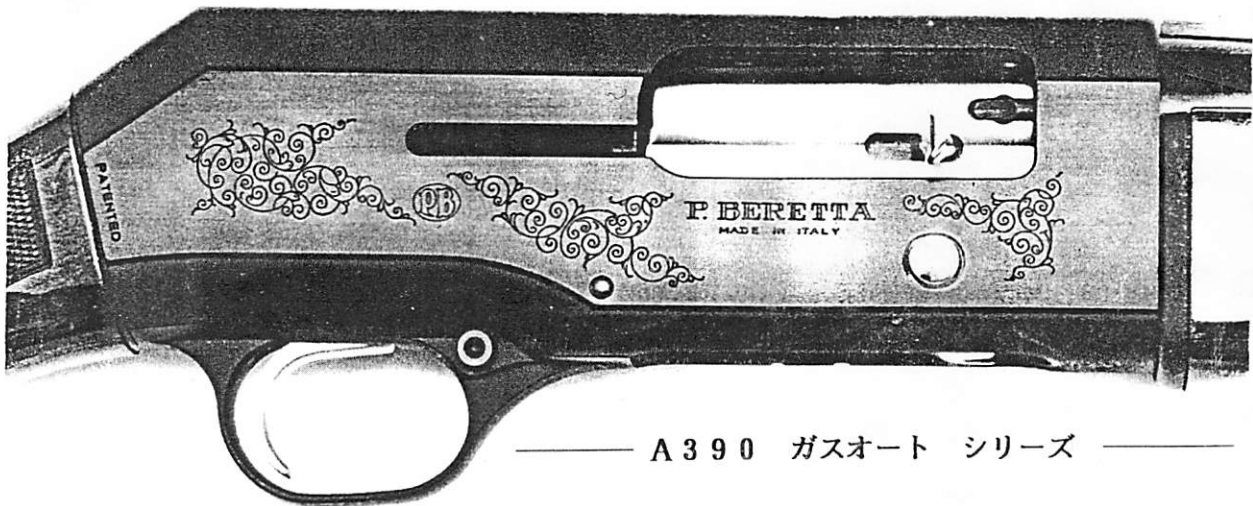


**Beretta**  
dal 1526

# A390 ST

—— トータルな完成度の高さを誇る新機構群 ——

## 取扱い説明書



—— A390 ガスオート シリーズ ——

銃を操作したり弾を装填する前に必ずこの説明書をお読み下さい。

Fabbrica d'Armi Pietro Beretta S.p.A. 輸入総代理店

**JGT** ジャパン ガン トレーディング株式会社

# 銃を安全に取り扱う注意

- (1) 銃は、常に注意深く、慎重に取り扱って下さい。

銃の性質上安全確認をせず、又、操作方法を間違えると重大な事故の原因となります。使用銃の機械的、性能的、特性を十分に理解した上でご使用下さい。

- (2) 銃口は常に安全な方向へ向けて、矢先の安全を十分に確認して下さい。

銃口は常に安全な方向へ向けて下さい。銃を発射出来る場所は射撃場、猟場等、限定されています。発射する前には銃口の向、矢先に十分注意して、重大事故を発生させる様な、人、及び物がいないか注意して下さい。たとえ弾が入っていない銃でも、決して銃口を安全な方向以外に向けてはいけません。

- (3) 使用しない時は弾を脱包し、機関部を開放して下さい。

銃を使用する時以外は、弾を銃に装填しないで下さい。必ず弾を抜いておくことは、安全確認の基本原則です。

- (4) 銃身内に異物がないか常に確認して下さい。

使用する銃の銃身内は発射前、及び銃の手入後、常に異物が何も残っていないか確認し、もし少しでも異物が残っていると圧力を増大させ、結果として銃身を膨らませたり、破裂事故を起こし人身事故の原因となりますので注意して下さい。

- (5) 交換チョーク付銃身については、チョークの締め付けが十分か常に確認して下さい。

チョークの締め付けが十分でないと、チョークが邪魔物となり銃身を膨らませたり、破裂したり、チョーク本体が飛んだりして人身事故の原因となりますので注意して扱って下さい。又、内装チョーク式銃身では必ずチョークを取付けてご使用下さい。チョーク交換時も銃に弾が入っていないことを必ず確認して下さい。

## (6) 使用銃に適合した番径、口径、薬室を有する弾以外は使用しないで下さい。

番径、薬室長、口径の適合しない弾を使用した場合、薬室及び銃身を膨張させたり、銃身内に弾が入り込み次弾を発射した場合、銃身、機関部を破裂させ、人身事故の原因となります。交換チョーク付銃身の場合も絞りに適合した弾を使用して下さい。常に銃との適合弾を使用前に確認し、不適合弾、不適切な手詰弾を使用しないよう注意して下さい。

## (7) 水面、堅い物体、竹林等に向けての発射は跳弾の危険があります。

銃口の向、矢先の方向においては跳弾の発生する場合も十分考えられます。跳弾の方向を事前に推測する事は出来ません。跳弾が発生する様な方向への発射はしないで下さい。

## (8) 弾はどこまで飛ぶか

標的、獲物を撃つ為、発射された弾の最大到達距離は「どこまで、どこへ」飛んで行くかを引き金を引く前に十分に認識する事が大切です。最大到達距離は銃身の長短、絞り、火薬の種類と量、弾頭又は、散弾重量、風向、湿度、気温等、諸条件で異なりますが、一般的に散弾は号数により約 200m～500m以上飛び、スラッグ弾も 700m以上飛びます。ライフル銃弾は約1600m～4000m以上飛び、空気銃弾でも 300mは飛びます。その為引き金を引く前に標的、獲物との距離ばかりでなく、その間や、その先に「何があるか」「危険がないか」十分に確認をして下さい。

## (9) 弾を装填した銃を持つての移動、運搬は危険です。

銃を所持して自宅から射撃場、猟場への行き帰り、猟場から猟場へ移動中又出猟中、木に登ったり、小川、溝を飛び越えたり、急な登り下り、その他足場の悪い場所等、不意にどの様な危険な事態が起きるかも知れません。たとえ弾倉内といえども、銃に弾を入れることをしないで下さい。

## (10) 銃の安全器は絶対か？

銃の安全器は「安全に」セットすれば絶対に発射機能を停止できるか？引き金を引いても、その他どのような力が銃に加わっても、絶対撃発されないと考えるのは間違いです。安全器も銃の機械的機構の一部であり、最悪の場合機能しない時もあります。銃を使用する前安全器が確実に作動す

るか確認するとともに、安全器が「安全に」セットされているからと考え発射前不用意に引き金を引いてはいけません。

## (11) 銃と弾は別々の保管庫へ

銃の保管に関してはどのような場合でも銃に弾が入っていない事を確認し銃は先台、ボルト等を外し保管庫へ収納して下さい。銃、弾の保管庫は常に施錠し子供等手の届かない安全な場所で十分な管理をして下さい。

## (12) 引き金を引いても弾が発射しない場合

時に引き金を引いても弾が発射されない場合があります。不発、遅発、機能不良、このような状態が発生した時、銃口は安全な方向へ向け、しばらく時間をおいた後、静かに銃を操作し、装填されている弾を慎重に抜き取って下さい。いつ弾が発射されるか知ることが出来ないため、銃口は安全な方向へ保持したまま行って下さい。

## (13) セフティーグラスは必ず使用しましょう。

天候状態、銃の特性、使用弾により発射時の火薬ガス、火薬残滓、クレーの破片等から、貴方の目を守るため必ず防護用眼鏡等ご使用下さい。

## (14) 耳栓、イヤープロテクター等は、難聴などの聴力障害を防止しますので必ず使用しましょう。

弾の発射音を聴き続けていると難聴等の聴力障害を起こします。耳の保護の為に銃の発射時、又、近くで銃を発射している時は防護用耳栓、イヤープロテクター等必ずご使用下さい。

## (15) 銃の改造、機能変更等について

銃は各種類、用途により長い期間をかけ専門家により銃本来の機能を十分に発揮できるよう複雑で精密な機構で設計されていますので、使用者による銃の機能、機構、改造、変更はお止め下さい。これらの行為は銃メーカーの保証対象とはなりません。銃の機能調整、部品交換、定期点検、分解掃除は銃をご購入の銃砲店へご相談下さい。

(16) 「飲んだら銃を手にしない」アルコール飲料は厳禁です。

(17) 関係法令を遵守し又、安全、確実な取扱と銃器に関する機能不良が起きないように的確な保守整備を行って下さい。

注意事項を守りハンティング、シューティングを行きましょう。

銃を安全に取り扱う注意事項を遵守せぬ結果、発生する人的損害、物的損害等に付いては一切の責任を負いません。

# 目 次

	(ページ)
銃の安全操作の為に .....	1-4・6
発射時の目と耳の保護 .....	6
モデルA390の特徴 .....	7
モデルA390の主要部品名称 .....	8
モデルA390の規格・仕様 .....	9
モデルA390の機能 .....	10
モデルA390の操作 .....	11
A390の組み立て方法 .....	11-13
A390の装弾の装填方法 .....	14
A390のカットオフの使用方法 .....	15
A390の装弾の脱包方法 .....	16
A390の銃身・機関部の分解方法 .....	17
A390の銃身・機関部の手入れ方法 .....	18-19
A390の手入れ後の組み立て方法 .....	20
A390のモービルチョークの使用法 .....	22
A390の銃床諸寸法の調整方法 .....	21
A390の安全器ボタンの入れ替え方法 .....	23

この度はベレッタ モデル A390をお買上げ頂き誠にありがとうございました。  
末ながくご愛用いただくために取扱説明の小冊子をご熟読下さるようお願い致します。

## 猟銃の安全操作の為に

猟銃は発射のチャンス以外のときは安全器を掛けて置いてください。安全器のボタンは、危険を示す赤色のリングが見えなくなるまで完全に押し込んで下さい。

- (1) 猟銃は、常に注意深く、慎重に取り扱って下さい。
- (2) 銃口の向きに注意しましょう。又、安全器は発射の直前まで掛けて置きましょう。
- (3) 不必要なときは装弾を脱包し、ボルトを引いて機関部を解放して置きましょう。
- (4) 銃身内に異物はないか常に確認し、銃身破裂事故を防ぎましょう。
- (5) 発射する前には、獲物と矢先の安全を確認しましょう。
- (6) 水面、堅い物体、竹林等では、跳弾の危険があります。十分な注意が必要です。
- (7) 弾を装填した猟銃を持って、木や柵に登ったり、小川や溝を飛び越える事は危険です。又、猟銃の銃身部を持って取り扱う事は危険ですから止めましょう。
- (8) 銃口は、たとえ装填されていない銃でも、人畜、建物、車輛、舟など、危険を生ずる方向へ絶対に向けないようにしましょう。。
- (9) 銃と弾は別々に保管しましょう。銃は脱包して規定のロッカーへ、ロッカーの鍵などの管理は十分に。子供の手の届かないようにしましょう。
- (10) 『飲んだら銃を手にしな』 アルコール飲料は厳禁です。

## 発射時の目と耳の保護

- ※ シューティンググラス（射撃用眼鏡）は、発射時のガス、火薬残滓等からあなたの目を守ります。特に、発射数の多い射撃場や、向い風での発射のときは必携品です。
- ※ 射撃場での耳栓の使用は、難聴などの聴力障害を防止します。
- ※ ベレッタ社では新しくデザインされた競技用のシューティンググラスを発売しております。この眼鏡は、周囲の明るさなど状況に応じて、レンズの交換やサイドバイザーの着脱が出来るようになっています。

### 《銃身の番号について》

ベレッタ自動銃の銃身は、インターチェンジャブル（互換性）のため、機関部とは異なる番号が刻印されています。

銃の所持許可証へ記載する銃番号は、機関部に刻印された番号になります。

## モデルA390の特徴

ベレッタA390自動銃は、軽装弾から超重装弾まで無調整で使えるように設計されています。3インチ（75<sup>ミリ</sup>）薬室と、ガス圧調整装置を備えているため、市販の散弾量28<sup>グラ</sup>の軽装弾から56<sup>グラ</sup>の3<sup>インチ</sup>マグナム装弾まで、完全無調整で自由に発射することができます。

### 《新しいデザインの機関部》

外観が流線形の機関部は、そのラインを保ちながら銃床のグリップへ連なり、全体に美しく調和のとれたデザインです。更に、新しいデザインの用心金と引鉄、機関部上下の黒色の艶消仕上げは側面の黒色仕上げを引き立たせ、シンプルな唐草彫刻や、デラックスな彫刻と相俟ってA390の新しい外観と特徴を形造っています

### 《新方式のガスオペレーション》

新方式のガスオペレーション・システムは、基本的には定評ある従来のA300～A303と同様ですが、更に、重装弾を使用した時に生ずる余分なガス圧を、自動的に調整して逃がす為のエクゾーストセルフクリーニングバルブ（ガス圧自動調整弁）を備えました。

これにより、装填されている散弾量が28<sup>グラ</sup>の軽装弾から、56<sup>グラ</sup>の3インチマグナム装弾まで、市販の装弾を無調整で発射することが出来るようになりました。

### 《新方式のマガジンカットオフ装置》

新方式のカットオフ装置は、機関部の左側面の操作し易い位置にあります。装弾を薬室に装填し、ボルトが閉鎖された状態で指先で簡単に操作できます。誤ってカットオフ装置の解除を忘れても、初弾の発射により自動的に解除されますので、連発機能を損なうことはありません。

### 《右・左射手兼用入替式安全器ボタン》

安全器のボタンは取付け方向を逆にする事で、右射手用から簡単に左射手用に変えられます。

### 《簡単に寸法の変更が可能な新型銃床》

銃床の諸寸法は、射手の体格や体型によって微妙に変わります。新銃床では部品の取付け方や、部品を交換することで、簡単にお好みの寸法に変えることができます。

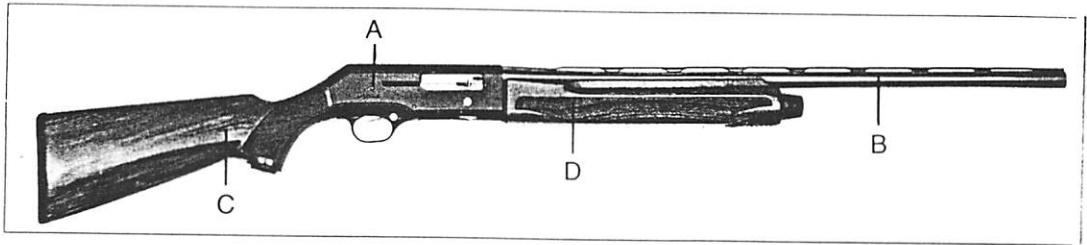
<銃床の長さ>…床尾板には、プラスチック台尻と、異なる厚さのゴム台尻が用意されています。適当な厚さの床尾板に替えることで簡単に長さの調節が可能です。

<バンドとキャストオフ/オン>…機関部と銃床の接合部にあるテクノポリマースペーサーと、銃床内部にあるストックメタルプレート（バンド調整板）の取付方向を変えることによって、バンドとキャストオフ/オンを射手に適合するように調節することができます。

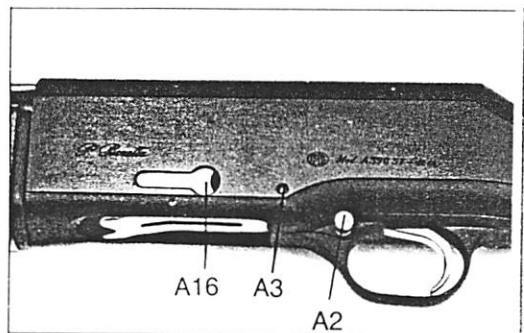
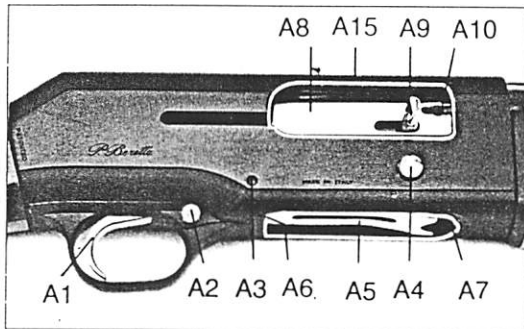
《その他》 先台側負環は先台金具とキャップの間に、元台側負環は銃床へネジ止めされます。A390は全く新しく設計されたモデルなので、従来のA300～A303シリーズとの銃身、銃床、先台等、部品の互換性はありません。（ごく一部の部品を除く）



## 主要部品の名称

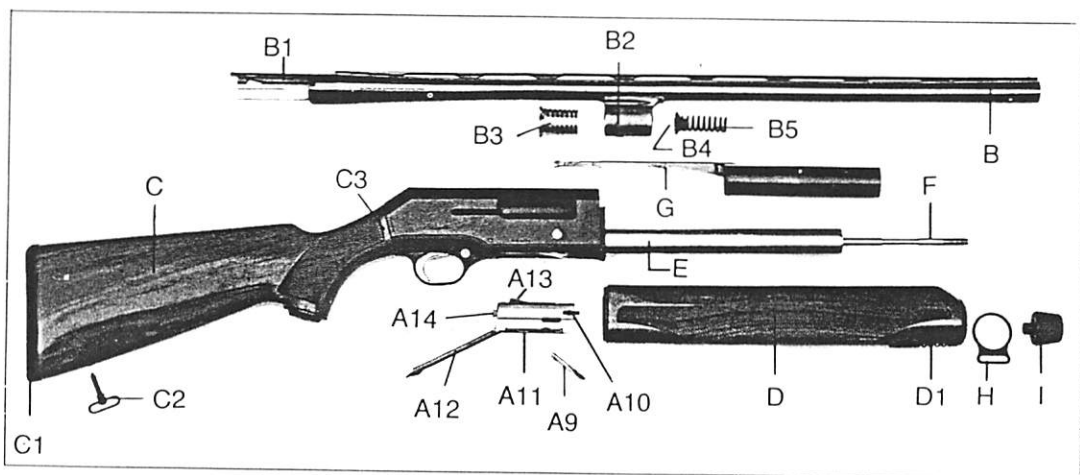


- |      |                  |     |                     |
|------|------------------|-----|---------------------|
| A    | レシーバー (機関部)      | B   | 銃身                  |
| A 1  | 引鉄               | B 1 | バレルエクステンション         |
| A 2  | 安全器              | B 2 | ガスシリンダー             |
| A 3  | 引鉄座止めピン          | B 3 | ピストン                |
| A 4  | ボルト閉鎖ボタン         | B 4 | エクゾーストバルブ           |
| A 5  | キャリアー            | B 5 | エクゾーストバルブスプリング      |
| A 6  | キャリアーストッププッシュボタン | C   | 銃床                  |
| A 7  | 装填口              | C 1 | バットプレート (床尾板)       |
| A 8  | ボルト              | C 2 | 負環                  |
| A 9  | ボルトハンドル          | C 3 | テクノポリマースペーサー        |
| A 10 | エキストラクター         | D   | 先台                  |
| A 11 | ボルトスライド          | D 1 | エクゾーストポート           |
| A 12 | コネクティングロッド       | E   | マガジンチューブ (弾倉)       |
| A 13 | ロッキングブロック        | F   | 弾倉キャップ (シャフト付)      |
| A 14 | 撃針               | G   | オペレーティングロッド (スリーブ付) |
| A 15 | 脱包口              | H   | 負環                  |
| A 16 | マガジンカットオフ        | I   | 先台キャップ              |



## A 3 9 0 の規格・仕様

口 径 ;	1 2 番
薬 室 ;	3 発 ( 2 - 3 / 4 発、又は 3 発の装弾使用可能)
作 動 方 式 ;	自動装填式 ( セミオートマティック ) ガスオペレーション・ガス圧自動調節式
ロッキングシステム ;	フォーリング ブロック方式
レシーバー ;	軽合金
銃 身 ;	ニッケルクロームモリブデン鋼 銃腔内 クロームメッキ
リ プ ;	ベンチレーテッド リブ
照 星 ;	メタルビード 蛍光フロントビード ( 射撃競技用 )
安 全 器 ;	クロスボルト式 ( 左右入れ替え可能 )
弾 倉 ;	チューブ型 2 発 ( 薬室内 1 発・3 連銃 )
銃 床 ;	材質 くるみ材 チェッカーリング ( 網目切り ) 付き バンド 及び キャストオフ / オン 調節式
重 量 ;	3 . 4 5 K g ±



## モデルA390の機能

新設計によるベレッタA390は、ガスオペレーション方式の自動装填式3連銃で、機関部の閉鎖にはフォーリングブロックシステムとよばれる堅固な構造を採用しています。

この方式は、リコイルスプリングの力で、装弾を薬室へ送り込むボルト内に組み込まれたロッキングブロックが、機械的に作動して、銃身と一体構造のバレルエクステンションの溝へ嵌合し、発射の圧力に耐える確実に丈夫な閉鎖機構です。

装弾が薬室に装填され、ボルトが閉鎖された状態で引鉄を引くと、撃鉄は撃鉄バネの作用で撃針を打撃し、撃針による打撃で雷管が発火して装弾は発射されます。

撃鉄は撃針を打撃すると共にキャリアストッププッシュボタンに作用してキャリアーの位置を下げ、弾倉内の次弾をキャリアーの上へ導き出します。

発射された散弾が銃口を離れる頃、発射のための火薬ガスの一部は、銃身のほぼ中間に設けられたガスポートから、銃身下部にあるシリンダーへ導かれます。

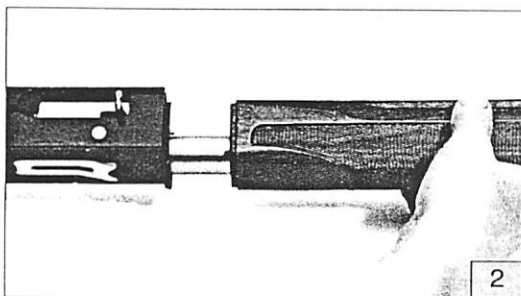
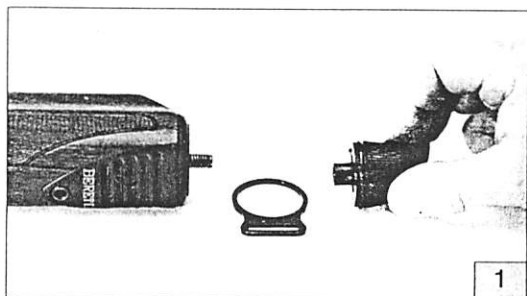
シリンダーへ入ったガスは、その圧力でピストンを押して作動させ、オペレーティングロッドを介してボルトを後退させます。

このボルト後退の動作で発射済みの空薬莢を排莢し、同時に撃鉄を次弾の撃発のためにコックします。

ボルトが後退しきると、銃床内に内蔵されたリコイルスプリングの力で、ボルトは前進に転じ、キャリアーを押し上げ、次弾を薬室へ送り込んで閉鎖状態とし、同時に、オペレーティングロッドを介してピストンをシリンダー内へ戻し連発のサイクルを完了します。

以上の一連の動作で銃は自動的に次弾の発射が可能となります。

A390は、薬室に1発、弾倉内に2発装填できる3連銃ですが、最後の1発が発射された後は、ボルトがカートリッジラッチ本体によって後退した位置に止められ、開放状態になります。A390では、マグナム装弾等の超重装弾を使用した際、シリンダーへ導かれる余分なガスを、エクゾーストバルブの作動により、自動的に、先台先端に設けられたエクゾーストポートから排出する機能を持っています。



## モデルA390の操作

### 《A390の組み立て方法》

ベレッタA390自動銃は、工場出荷時に<銃身>と、<本体>（機関部-銃床-先台）は、別々の箱に収納されています。

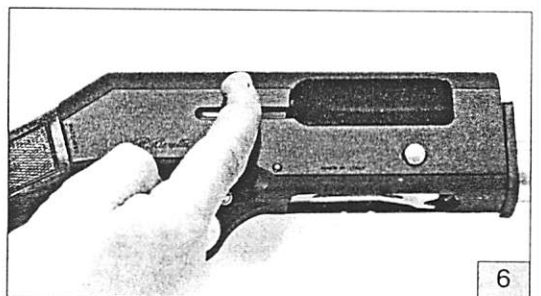
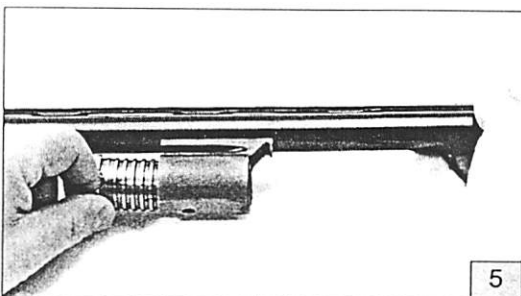
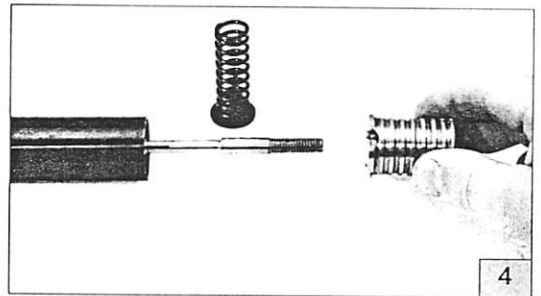
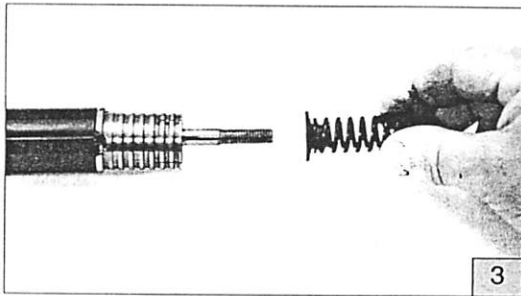
これらを組み立てる前に、「主要部品名称」と「モデルA390の機能」の項目をよく理解して、誤りのないように取り扱ってください。

ちょっと一言…本体（機関部-銃床-先台）は工場出荷の際、ボルトは閉鎖、撃鉄は撃発された状態、安全器はオフの状態になっています。（安全器は撃鉄がコックされた状態でのみ作動します）

一度、引鉄を引いて撃鉄が落ちていることを確認してください。

もし何らかの理由でボルトが開放状態になっている場合は、いきなりボルト閉鎖ボタンを押さないでください。ボタンを押すと脱包口に指を挟まれたり、ボルトハンドルで脱包口やハンドルを傷付ける恐れがあります。

- ★先ず、銃身をチェックします。銃身内に異物はないか確かめてください。
- ★又、本体についても、機関部や弾倉に装弾がないことを、覗きこんで確かめてください。
- ★本体の先台先端にある先台キャップを、反時計方向にまわしてキャップを外します。負環が組み込まれているときは共に外します。1
- ★先台を銃口方向に引き抜いて、弾倉から外します。2
- ★弾倉先端のシャフトからエクゾーストバルブとピストンを抜き取ります。3、4
- ★ピストンを銃身下部にあるガスシリンダーへ挿入します。5
- ★機関部のボルトハンドルを後方へ止まるまで引いて、ボルトを開放状態にします。6



★次に、銃身を機関部へ取り付けます。右手で銃身のガスシリンダー部分を持ち、ピストンが脱落しないよう注意しながら、バレルエクステンションの後端を機関部へ、同時に、弾倉キャップのシャフトがピストンの穴に入るよう注意して作業します。7

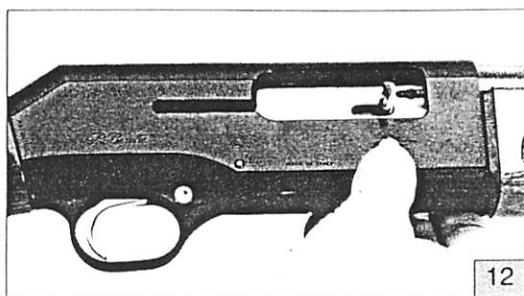
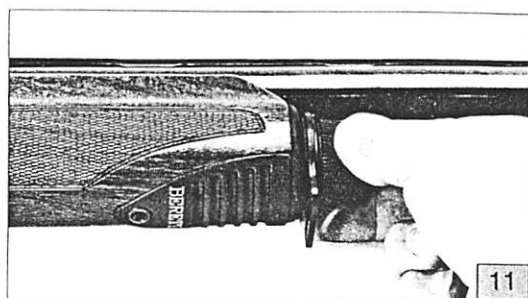
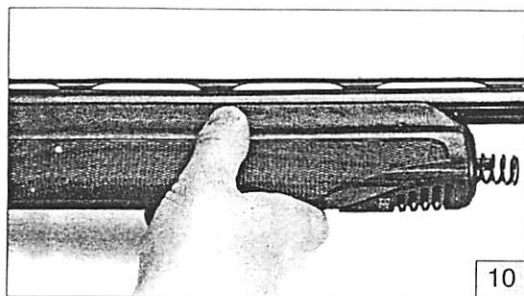
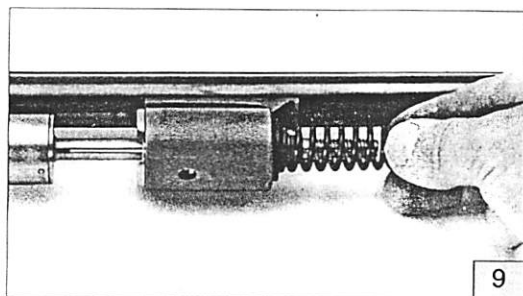
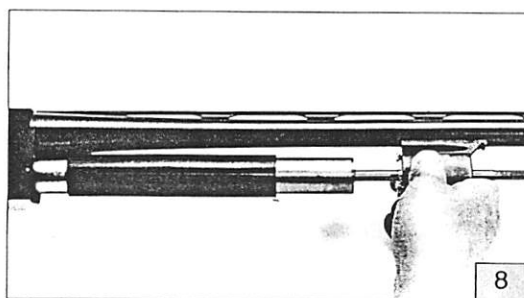
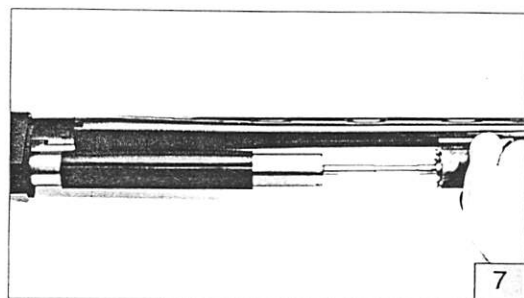
★銃身を機関部へ止まるまで押し込んで取り付けます。8

★取り外してあるエクゾーストバルブを、弾倉キャップのシャフトへ滑合してガスシリンダーの上部へ取り付けます。9

★先台を取り付けます。この時、エクゾーストバルブのスプリングが先台先端の金具から外へ出るようにします。10

★先台キャップを時計方向に回してネジ込みます。この際、負環がある場合には先台キャップと共に取り付けます。

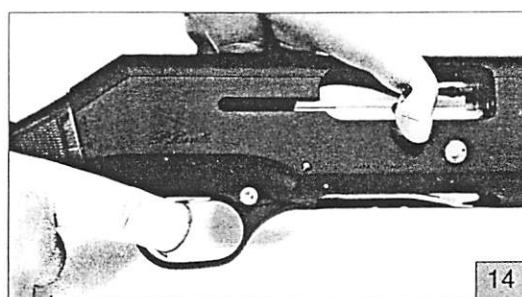
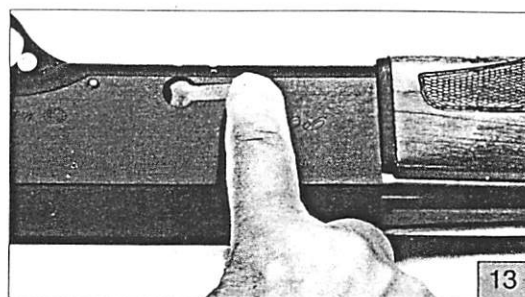
先台の後端部分が、機関部の所定の場所へ完全に嵌め込まれているか確認し、先台キャップを十分に締めながら、負環が先台キャップを中心に回転するかを確認しましょう。11



★これで銃身と機関部の組立てが完了しました。ボルト閉鎖ボタンを押して、ボルトを閉鎖して見てください。ボルトはリコイルスプリングの力で勢いよく閉鎖されます。機関部の脱包口で指を挟まれないようご注意ください。12

ちょっと一言…ボルト閉鎖ボタンを押してボルトを閉鎖しようとするとき、マガジンカットオフボタンが押し込まれていると、ボルトは数ミリ前進した位置でキャリアを介してカットオフボタンで止められ閉鎖されません。  
この場合は、カットオフボタンの前方を押してボルトを閉鎖してください。危険ですから、これらの操作中は脱包口付近から指を遠ざけましょう。13

★念には念を入れ、装弾がないことを確かめるため、ボルトを引いて薬室や機関部を確認します。（このときは、撃鉄がコックされているためボルトは後退位置で止まりません）  
装弾のないことを確かめたらボルトを閉鎖し、ボルトハンドルを10ミリくらい引いたまま引鉄を引き撃鉄を落としましょう。ボルトハンドルを10ミリくらい引く操作により、撃鉄は撃針を打撃しませんので、撃針折れのトラブルや、万一の暴発を防ぐことができます。14



## 《A 3 9 0 の 装 弾 の 装 填 方 法》

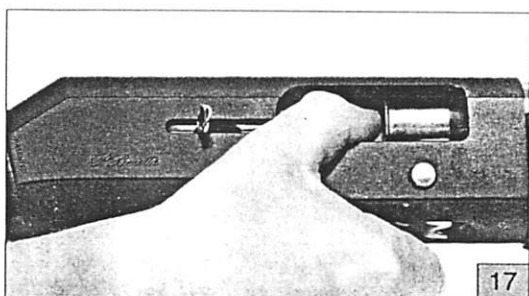
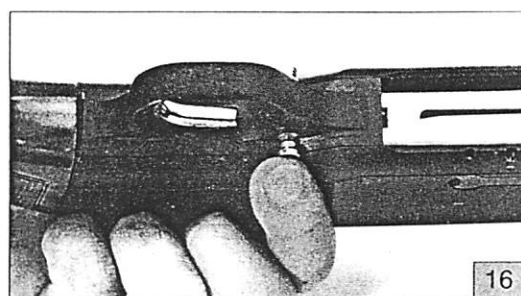
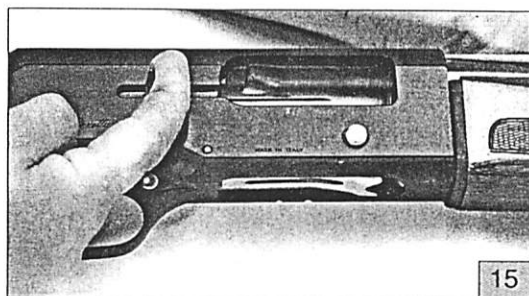
ちょっと一言…作業中は、あなたの指を常に引鉄から遠ざけておきましょう。そして、装填作業に先立ち、現在、装弾が装填されていないことを確かめてください。

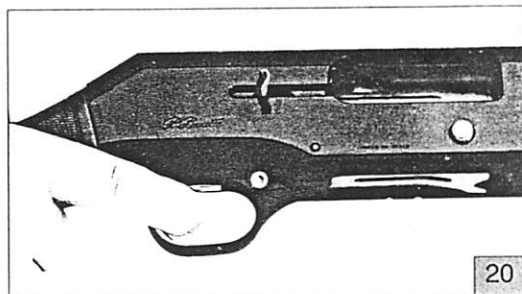
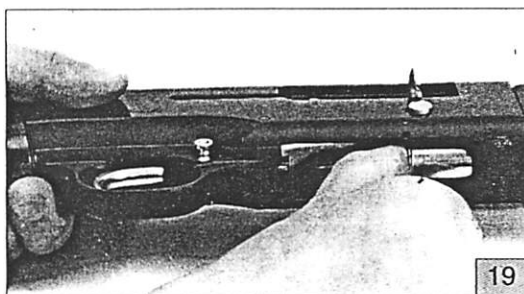
- ★ボルトハンドルを引き、ボルトを後退させて開放状態にします。15
- ★撃発可能状態を示す赤色のリングが隠れるまで、安全器のボタンを十分押し込んで〈安全〉を掛けてください。16  
(安全器は、撃鉄がコックされた状態の時だけ作動させることができます)
- ★先ず、第1弾を脱包口から薬室へ装填します。17
- ★ボルト閉鎖ボタンを押して、ボルトを閉鎖します。18  
(ボルトを閉鎖するときは、銃をシッカリ保持して銃口の方向に注意しましょう。カットオフレバーはオフになっていますか？ 確認しましょう)
- ★第2弾、第3弾を機関部下面の装填口から弾倉へ装填します。装弾の先端でキャリアを押し、確実に弾倉へ装填されるよう指先で十分に押し込みます。19
- ★装弾の装填はすべて完了しました。

安全器を外して、引鉄を引くごとに1発ずつ銃は発射(連射)されます。

弾倉内のすべての弾を撃ちつくすと、ボルトは開放の位置で止まります。20

- ★必要ならば、安全器を掛けてから、上記の装填作業を繰り返します。





### 《A390のマガジncットオフの使用法》

マガジncットオフ装置は、薬室に装填されている装弾を抜き取り、ボルトを後退位置へ止める働きをします。この間、弾倉に装填された装弾は機関部へ送り出されませんので、薬室に装填されている装弾を異種の装弾に換えたい場合などに便利な機構です。

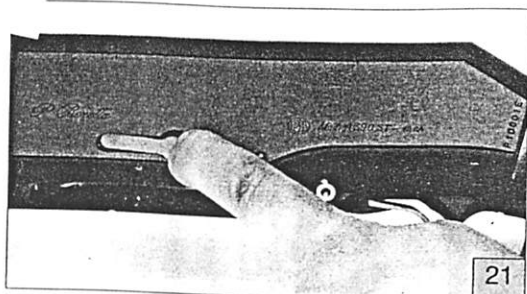
この装置を利用するとき銃には装弾が装填されています。安全器を掛けて操作してください。

★機関部左側面にある、カットオフレバー後端の円形の部分を指で押し込みます。21

★ボルトハンドルを引き、薬室の装弾を脱包口から取り出します。ボルトはキャリアーを介し、カットオフレバーにより後退した位置で止まります。弾倉の装弾は供給されません。22

★再度、薬室へ装填するときは脱包口から装弾を薬室へ装填し、カットオフレバーの前端を指で押し込むことによりボルトを閉鎖することができます。13

(脱包口で指を挟まないように注意しましょう)





### 《A 3 9 0 の 装 弾 の 脱 包 方 法》

脱包操作では、銃に装弾が装填されています。銃をシッカリ保持し、安全器を掛け、引鉄から指を遠ざけ、銃口は安全な方向へ向けて取り扱しましょう。

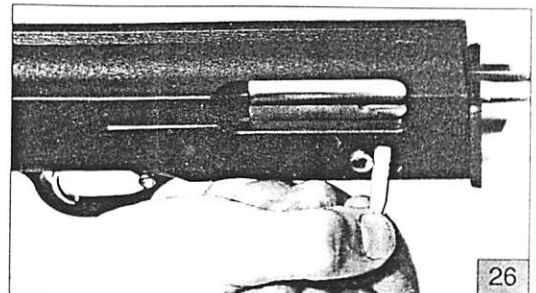
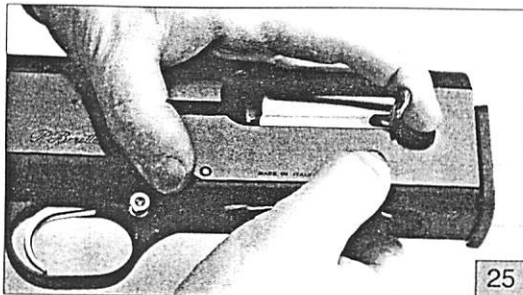
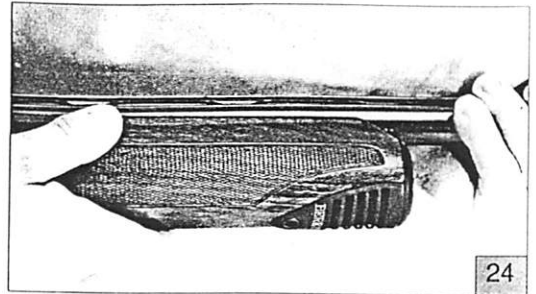
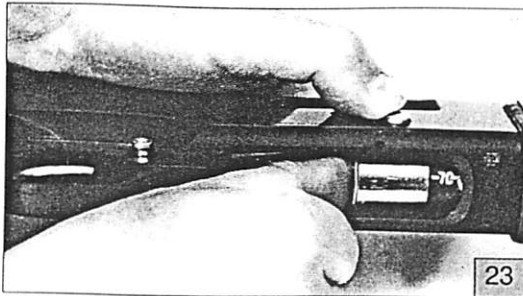
- ★カットオフレバーを作動させ、ボルトを引いて薬室内にある装弾を取り出します。21、22
- ★カットオフレバー前端を押し込み、ボルトを閉鎖します。指を挟まれないように注意。13
- ★機関部の下面の装填口からキャリアを押し、指で弾倉内の装弾を押さえながら、ボルト閉鎖ボタンを押しますと、弾倉内の装弾は弾倉バネの力で押し出されて来ますので静かに取り出します。23

(取り出した後は、安全のために残弾の有無をもう一度確認しましょう)

- ★薬室の残弾についても、ボルトを引いて、再度、有無を確認します。  
安全が確認されたらボルトを閉鎖位置へ戻し、ボルトハンドルを10°くらい引いた状態で引鉄を引いて撃鉄を撃発された状態にしておきましょう。14

### 《A 3 9 0 の 銃 身 ・ 機 関 部 の 分 解 方 法》

ちょっと一言…銃には装弾が装填されていないことを、作業に先だって再確認しましょう。  
(薬室、弾倉、機関部内をよく点検してください) 万一、装填されていたら  
A 3 9 0 の装弾の脱包方法の項にしたがって脱包してください。  
撃鉄は撃発された状態にして作業を開始しましょう。

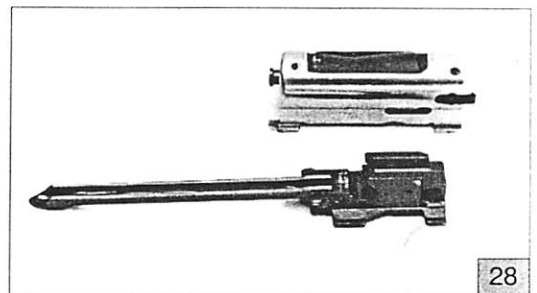
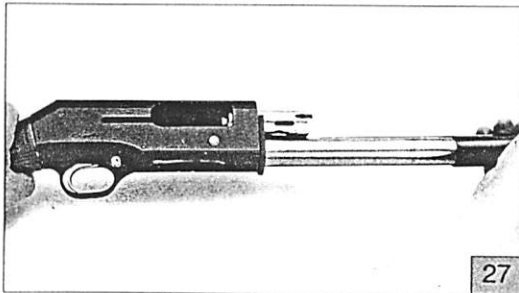


<銃身と機関部の分解>

- ★ボルトハンドルを引いて、ボルトを後退させ開放の位置にします。15
- ★先台キャップを反時計方向にまわしてキャップを外します。負環が組み込まれているときは共に外します。11
- ★左手で銃身を持ち、右手で先台をスライドさせて弾倉から前方へ取り外します。24
- ★エクゾーストバルブを抜き取ります。9
- ★銃身のガスシリンダー部分を、ピストンがシリンダーから抜け落ちないように持ち、銃身を機関部から抜き取ってください。8
- ★ピストンをシリンダーから抜き取ります。5

<ボルトの取り外し方>

- ★銃身を外した状態で、開放位置にあるボルトを前進させるときは、左手の中指か人差し指をボルトハンドルに掛け、ハンドルを保持したままボルト閉鎖ボタンを押してゆっくりと閉鎖の位置に戻します。25
- ★ボルトハンドルをボルトから引き抜きます。26
- ★机上に新聞紙などを敷き、機関部を弾倉への装填口を上にして置きます。弾倉外部をスライドするオペレーティングロッドスリーブを前方へ抜き取ると、ロッドと共にボルトは機関部から取り外すことができます。27
- ★ボルトは簡単にオペレーティングロッドから取り外せます。ボルトは更に次の2点に分解されます。
  - ① ボルト（撃針・ロッキングブロック・エキストラクター組込）
  - ② ボルトスライド（コネクティングロッド組込）28



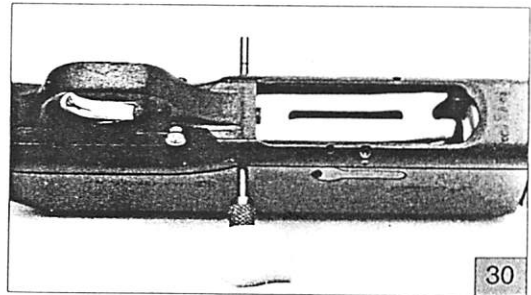
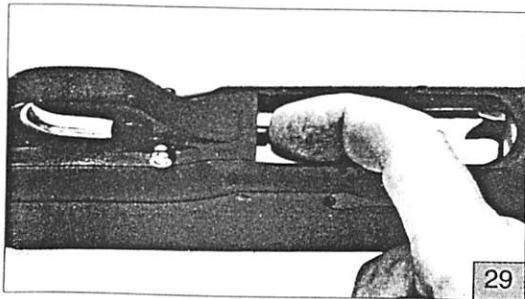
### <引鉄機構の取り外し方>

★安全器を掛けます（銃身と機関部の分解の時に撃鉄はロックされています）

キャリアの元部にあるキャリアストッププッシュボタンを押し込んで、キャリアの位置を下げておきます。29

★引鉄座の止めピンを、太さ3～4ミリの棒状のもの（箸の先でも良い）で押し抜きます。30

★ボルト閉鎖ボタンを押したまま、用心鉄を持って引鉄座を前下方にスライドさせて機関部から取り外します。31



ちょっと一言…ユーザーの方々は、ここに説明した程度の分解で十分な手入れが行えます。  
これ以上の分解は、設備と技術を持った専門の銃工に依頼してください。

### 《A 3 9 0 の銃身・機関部の手入れ方法》

火薬の燃焼残滓や、汚れ、ごみなどが機関部に溜まった時は、銃を分解して清掃してください。狩猟中には、細かい土砂やほこり、枯れ葉や、時には折れた小枝なども機関部へ侵入することがあります。これらは、機関部内へ湿気をよび、錆の発生や部品の磨耗につながるばかりか、銃の作動不良の原因にもなります。これを防ぐ最善の方法は使用後の手入れと適切な給油です。

### <銃身の手入れ>

★使用後の銃身は、筒中が火薬の燃焼滓や、散弾の鉛、ワッズ類のプラスチック滓で汚れています。これらの汚れはなるべく早く取り除いてください。

発射数が少なく、ごく軽微な汚れはベレッタガンオイルなどの銃油を筒中へたっぷり塗布し、ボロ布を付けた洗矢を通すことで清掃できます。しかし、発射数が多く、汚れがひどい場合には、金属製の鉛落し用のブラシとガンオイルを用いて汚れをかきおとします。

発射の際の汚れは筒中のみならず、薬室、バレルエクステンションにも付着しますので、同様に清掃してください。

★汚れが落ちましたら、きれいな布切れを通し、最後に薄く油を引いて手入れ完了します。

## <ガスシステムの手入>

ちょっと一言…使用装弾の中には3インチマグナムのように、大量の火薬ガスを発生させて頑固な汚れを付着させるものもあります。特に、ガスオペレーション方式の自動銃では、直接ガスにさらされるガスシステムの部品は、この影響を強く受けます。中でもガスシリンダー及びピストンとそのブッシュは最も過酷な条件に置かれた部分です。

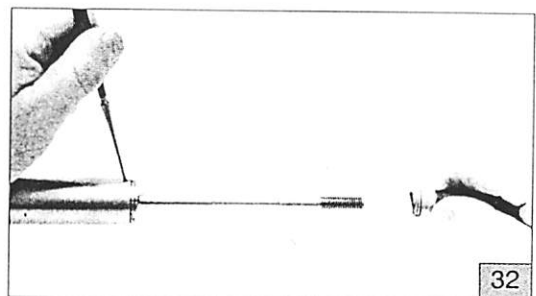
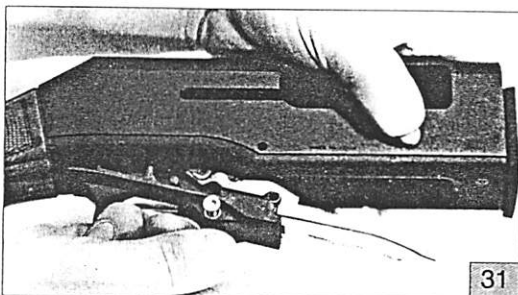
ガスオペレーション方式の自動銃では、ガスシリンダー内でのピストンのスムーズな作動が、銃の自動回転動作の鍵を握っています。

- ★使用後、ピストンがガスシリンダーの中をスムーズにスライドするかをチェックし、ガスシリンダーの汚れが甚だしい場合は、ベレッタガンオイル又は同等品のオイルを塗布して、ブロンズのワイヤーブラシで汚れを落します。
- ★汚れを落としたガスシリンダーは、やわらかい布切れできれいに拭き取って仕上げます。
- ★ピストンも汚れが甚だしいときは、ガンオイルとワイヤーブラシで清掃します。又、ピストンの後部に取り付けられたブッシュが、抵抗なく動くかもチェックしてください。
- ★エクゾーストバルブと弾倉キャップのシャフトも、ガスにさらされますのできれいに清掃してください。
- ★先台先端の金具（エクゾーストポート）もガスにさらされます。ベレッタガンオイル又は同等品のオイルとブラシで清掃し、良く拭き取ってください。

ちょっと一言…このガスシステムの部品は油を塗布せずにご使用ください。

## <機関部及び部品の手入>

- ★ボルトの清掃は、毎年の猟期終了後、或いは装弾を500個程度発射するごとに、小さいブラシとベレッタガンオイル又は同等品のオイルを使用して清掃してください。
- ★引鉄機構の清掃はボルトの清掃に準じます。
- ★機関部本体の清掃は、ボルトの清掃に準じますが、ボルトがスライドする溝には薄く給油してください。
- ★弾倉の外面は、やわらかい布切れで清拭しベレッタガンオイル又は同等品のオイルを薄く塗布して、オペレーティングロッドスリーブの運動をスムーズにしてください。



## 《A 3 9 0 の手入れ後の組み立て方法》

### ＜機関部及び部品の組立＞

分解の説明の逆を行います。

★引鉄機構の取り付けを行います。引鉄機構の撃鉄はコックされた状態、安全器は安全を掛けた状態、キャリアの元部にあるキャリアストッププッシュボタンは押し込まれた状態かを確認してください（分解したときの状態）。ボルト閉鎖ボタンを押したまま、引鉄座後端部分を先にいれて全体を正しく取り付けてください。

引鉄座の止めピンを入れて完了します。

★次に、ボルトの取り付けを行います。ボルト、ボルトスライドの2点を先ず組み立てて見てください。34

★これに、オペレーティングロッドスリーブのロッド後端を組み立てます。35

★キャリアストッププッシュボタンが押し込まれ、キャリアが下がった状態であることを確かめます。（もしこの状態でなければボタンを押し込んでください）29

★机上に新聞紙を敷き、機関部を脱包孔が上向きになるように置いてください。ボルト及びボルトスライドが組み付けられたオペレーティングロッドスリーブを弾倉へ滑合させると同時に、ボルトを機関部の所定の溝へ挿入します。27

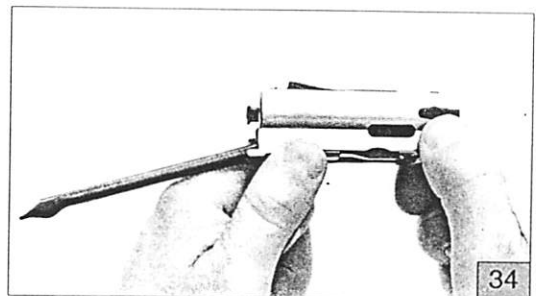
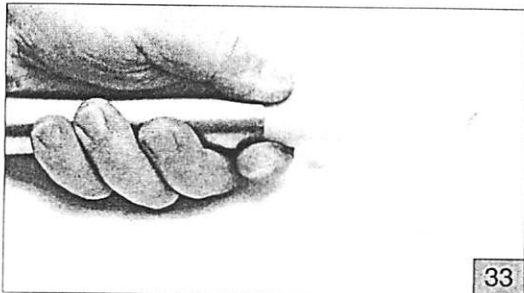
★ここで機関部が垂直になるように向きを変え、オペレーティングロッドスリーブを持って、ボルトが後退位置で止まるまで押し下げます。36

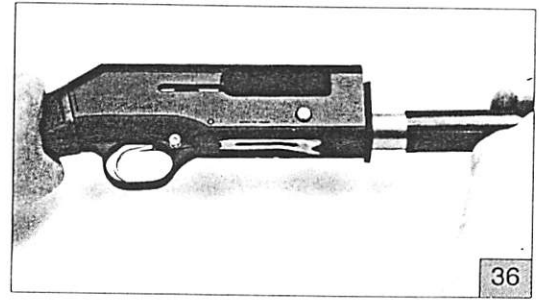
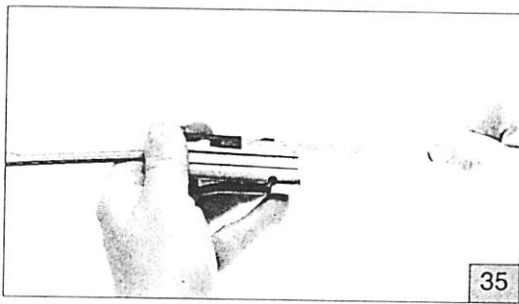
ちょっと一言…ボルトスライドに付けられたコネクティングロッドの先端が、リコイルスプリングを正しく押し込むように取り付けるには、機関部の脱包口から後方へ延びるボルトハンドル移動用の溝と、コネクティングロッドが平行になるよう、機関部を垂直に立てる角度を選ぶ事です。

★ボルトハンドルを、ボルトスライドの所定の位置へ押し込んで取り付け機関部の組み立てを完了します。

### ＜銃身の組み立て方＞

前述の＜銃身の組み立て方＞を参照してください。





### 《A 3 9 0 の銃床諸寸法の調整方法》

A 3 9 0 の銃床は、工場出荷の時点で次の諸寸法に取り付けられています。

- |          |               |                      |
|----------|---------------|----------------------|
| ヒールのバンド  | 5 5 又は 6 0 mm | (狩猟銃・スキート銃・スポーティング銃) |
|          | 4 0 又は 4 5 mm | (トラップ銃)              |
| 銃床のオフセット | 右射手用にキャストオフ   |                      |

これらの既製の諸元を調整する部品は、40

- A テクノポリマースペーサー (機関部と銃床の間に取り付けるスペーサー)
- B 銃床用メタルプレート (銃床をネジで締め付けるワッシャー)

このスペーサーAと、プレートBは組み立て時の向きと組み合わせによって、2種類の異なるバンドで、それぞれ右射手用のキャストオフか、左射手用のキャストオンをセットすることができます。

それぞれの部品には、セットされる寸法の数値等が記されています。

次の表は、狩猟銃のスペーサーとプレートの組み合わせで得られる寸法です。

部品の組み合わせ		銃床の寸法等	
部品 (A)	部品 (B)	バンド	キャストオフ/オン
C 5 5 D X	5 5 D X	5 5 mm	右射手用
C 5 5 S X	5 5 S X	5 5 mm	左射手用
C 6 0 D X	6 0 D X	6 0 mm	右射手用
C 6 0 S X	6 0 S X	6 0 mm	左射手用

(注) 部品 (A) に記されている < C > の文字は、狩猟用を表します。

希望により上記数値以外の部品もセットで入手できます。

これら銃床寸法等の変更作業は、銃砲店に依頼して行ってください。(13mm、又は1/2"の六角ボックスレンチとNo. 2の+ドライバーを必要とします)

床尾板は、銃に付属しているプラスチックのバットプレートを、無調整でゴムのリコイルパッドに付け替える事ができます。この方法で銃床の長さを調整することが可能です。この作業も、銃砲店に依頼して行ってください。

## 《A390のモービルチョークの使用法》

ちょっと一言…ベレッタモービルチョークSP（交換式チョーク）は、水禽類に無害なスチール散弾を使用できます。個々のチョークに刻印されたSPの文字はスチール散弾用を意味するスチールブールの頭文字です。

ベレッタ社では、スチール散弾にはモディファイドチョーク（半絞り）の使用をお薦めします。フルチョークを使用しても散弾の散開密度は濃くならずもし使用した場合は、鉛散弾を使用したときにフルチョークの効果を失う事があります。

旧型のモービルチョークはスチール散弾の発射に不適當です。ご使用前にチョークチューブに〈SP〉の刻印があるか否かをお確かめください。

★モービルチョークを取り外すには、銃に付属の多機能レンチか、別売りのベレッタナイフを使用します。銃口から見えるモービルチョークの溝にレンチを掛け、反時計方向へ回して弛め、手で回して取り外します。37

★銃身のモービルチョーク取り付け部分に汚れがあれば、ベレッタガンオイル又は同等品のオイルを含ませた布で清掃します。

★使用する強さの絞りが表示されたモービルチョークを選び、チョークの内外に汚れのないことを確かめて銃身へ挿入します。もし、汚れがあれば清掃してください。38

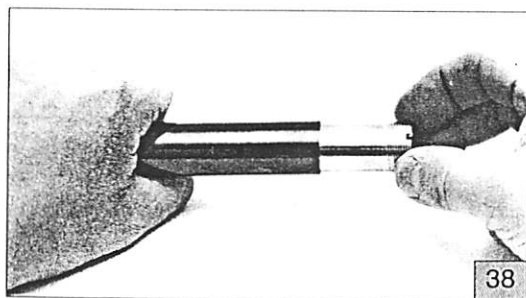
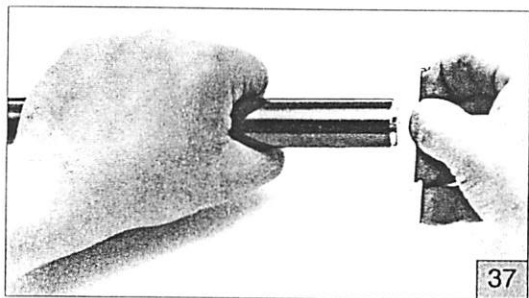
★時計方向に指先でネジ込み、更にレンチを使用して締め付けます。39、37

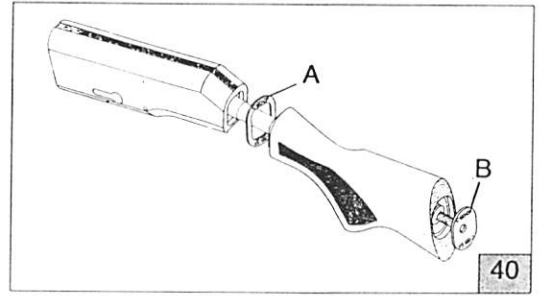
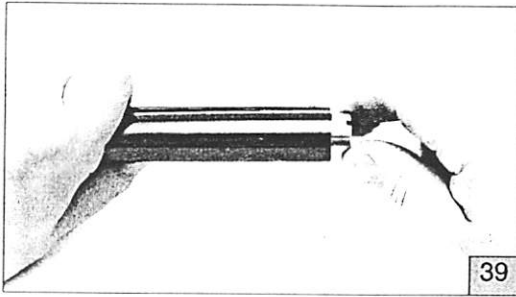
ちょっと一言…モービルチョークの取り付け、取り外し作業は、薬室・弾倉・機関部にあるすべての装弾を取り除いてから行ってください。

使用中に、モービルチョークのネジがゆるむことがあります。もし、ゆるんでいたら、すべての装弾を脱包してレンチで締め付けてください。

ご注意 !! モービルチョーク付き銃身は、必ずチョークを装着してご使用ください。

チョークを取り外したまま発射すると、取り付けネジを傷めるばかりでなく、危険をとまなう事があります。





### 《A390の安全器ボタンの入れ替え方法》

工場出荷時は、安全器のボタンは右射手用にセットされています。安全を掛けるにはボタンを銃の左側から押し込み、外すときは右側から押し外すセットです。これは、右射手が射撃のチャンス到来の時、右手で元台のグリップを握ったまま人指指を伸ばして、即座に安全を解除するのに便利なためです。

左射手には、この逆が便利になりますので、ボタンを取り外して逆に入れ替えて使用します。

安全ボタンを左射手用に入れ替えるには、まず、撃鉄をコックの状態にします。安全ボタンのバネに付属するプランジャーの頭をナイフの先端状のものでおさえ、ボタンを右側から左側へ押し抜きます。ボタンを逆にして左側から挿入して取り付けて作業完了です。

ちょっと一言…バネやプランジャーをとばして無くさないよう十分に注意 !!

この作業は、銃砲店に依頼して行ってください。



- このカードは、ベレッタ銃の所持者について登録、発行致します。
- このカードは、修理(保証書の範囲内)及び各種特典利用の際には、必ず提示願います。
- このカードの使用は、表記登録のご本人のみと致します。
- このカードを万一、紛失、盗難、汚損、破損された時は、ジャパン カントリーディング(株)にて再発行の手続きを受けて下さい。

Beretta Members Card  
ジャパン カントリーディング株

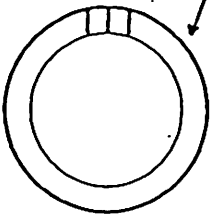
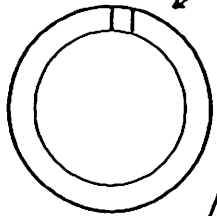
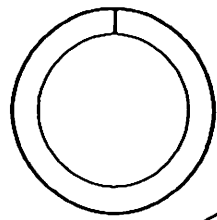
ご購入の際、必ず保証登録カードを弊社宛て送付下さい。  
コンピューター登録の上、上記メンバーズカードをお送り致します。



# Beretta 内蔵式

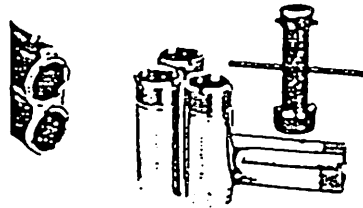
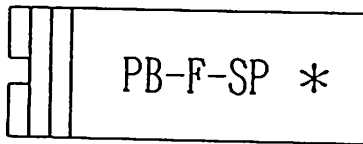
dal 1526

## モービルチョーク 絞り表示について



← きざみ 1 コの場合	フル
"    2 コの場合	3/4
"    3 コの場合	1/2
"    4 コの場合	1/4
"    5 コの場合	シリンダー
"    なしの場合	スキート

又はチョーク側面 (下記)  
のようになります。



PB-F-SPの中央の部分が	F - フル	*
IM           "	IM - 3/4	**
M           "	M - 1/2	***
IC           "	IC - 1/4	****
SK           "	SK - SKEET	
CL           "	CL - シリンダー	C****

(スキートの場合側面中央にSK又はSのみの場合もございます。)

### 付属チョークの数について

モデル A 304 シリーズ・・・本体銃身に 1 ケ、付属 4 ケ、計 5 ケ  
 モデル A 390 シリーズ・・・本体銃身に 1 ケ、付属 2 ケ、計 3 ケ



***JGT***

**Beretta**

dal 1526